



熊本県立ひのくに高等学校

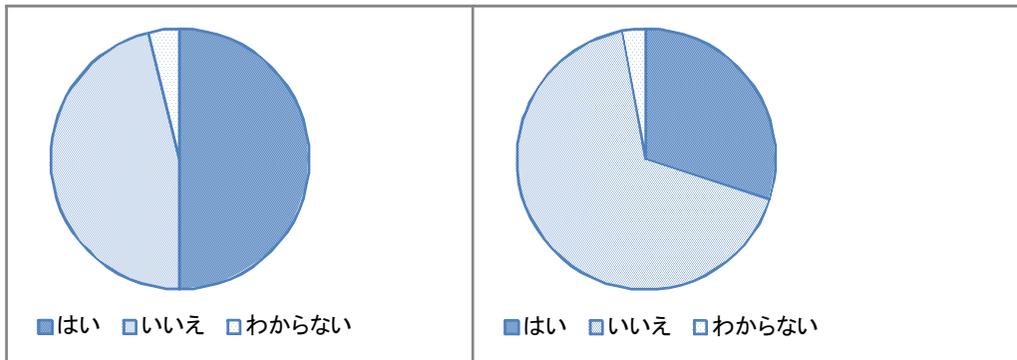
職員室.com

平成28年5月13日 第2号

学校再開

5月9日には寄宿舎生の帰舎、10日からは授業再開をすることができ、久しぶりに学校に活気が戻ってきました。

当日は「心の健康」アンケートを実施し、個別に教育相談を行いました。
※アンケート結果（一部抜粋）



「なかなか眠れないし、すぐ目が覚める」

「大きな音やちょっとしたことにドキッとする」

＜不安なこと＞

- ・巨大地震が来るか来ないか予想ができないし、怖い。
- ・揺れる回数は減ってきているが、なかなか眠れない。
- ・余震で家がきしむ音で不安になる。
- ・近くが震源地になると不安。
- ・自分の部屋にいたくないし、亀裂をみるのが嫌。
- ・余震が多く、常に揺れているような感じがする。
- ・家は倒壊しないとわかっていても心配。

天気予報をみながら視覚的に、また、時系列で見通しが持てる一過性の台風や大雨とは違い、いつ終わるのか分からない今回の地震です。特に、見通しが持てないことへの不安感を持ちやすいのが本校の生徒たちでもあります。また、阿蘇や益城方面から通ってくる生徒にとっては地震の爪痕を繰り返し見なければならぬことで受ける心のダメージは大きいと思います。地震で大きな被害を受けた地域と早めに日常生活に戻ることができた地域では、生徒の捉え方も違っていているでしょう。ただ、アンケートの結果からも身体症状や感覚過敏という形で地震の後遺症が出ている生徒が多くみられ、大

人になる階段を登っている思春期の子どもであるという見方も必要であると思います。ケースによってはスクールカウンセラーの導入も行いますので、ご家庭で気になることがありましたら、担任までご相談ください。

現在、阿蘇方面から通ってくる生徒に関しては、豊肥本線、南阿蘇鉄道の寸断、阿蘇大橋の崩落により公共の交通機関が利用できません。県教育委員会と連携し、帰舎、帰省についての方法を検討しています。同じ熊本県民が被災し、県民が力を合わせて復興に取り組まなければならないことは県民の務めでもあり、「オールくまもと」を合い言葉に、熊本スピリッツで前進しましょう。

1300回を超える余震とともに、間もなく梅雨の時期を迎えます。少しの雨でも大きな災害に繋がります。引き続き生徒の安全確保と見守りへのご協力をよろしくお願いいたします。

今、大切にしたい「子育て四訓」

乳児期は肌を離すな。幼児期は手を離すな。学童期は目を離すな。

思春期は心を離すな。

1学期の学習について

1学期終業式：学習時間の確保のために7月29日（金）

2学期始業式：当初の計画どおり、8月24日（水）

3年生現場実習：5月16日（月）～27日（金）

一部生徒については地震の影響により日程を変更して実施。

施。

2年生現場実習：6月20日（月）～24日（金）

1年生校内実習：延期 2学期で現在調整中

地域花いっぱい・クリーン大作戦：6月30日（木）

九州地区知的障害教育校長会・PTA連合会研究協議会 In 宮崎

：6月2日（木）、3日（金） 青柳会長、校長出席

熊本県知的障害教育校PTA連合会研修会（主幹校：大津支援学校PTA）

：7月31日（日） 合志市ヴィーブルは今回の地震により使用できません。会場を本校に変更して開催予定。

現場実習報告会、九州ルーテル学院大学花壇づくり等については現在日程調整中です。

・・・校長のつぶやき・・・

我が家の長男は、現在大学で仕事をしています。重度の自閉症で音に対する感覚過敏があり、今回の地震でも揺れを敏感に察知し、「地震恐かった」が口癖となりました。よほど恐かったのでしょうか、しばらくは父親の側で休み、入浴も一緒でした。さらに、職場の再開とともに、職場の被災状況を見てショックを受けたようです。大型連休も明け、少しずつ働きながら自分のリズムを取り戻しているようです。

○職員室.com は本校HPにも掲載しております。